

太古の森のおもかげ：
山城原野の植生を今に残す糺(ただす)の森



撮影：2013年9月（京都府・京都市左京区下鴨泉川町）

◆下鴨神社（賀茂御祖神社）の深い森

平安遷都以前の山城盆地は湖と森におおわれて、小川に沿って水を好むカツラの樹が多数生えていたようです。下鴨神社境内に広がる糺の森は常に静寂さにつつまれ、その中を今でも複数の小川が瀬音をたてながら流れています。

瀬見の小川が流れる森の周辺では、太古より様々な命を育み、静かに見守ってきました。「ゆく河のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」鴨長明の代表作『方丈記』が川の風景で始まるのは偶然ではないようです。

岡村幸二（JRRN会員）